

**教育目標** にこにこ笑顔・どきどき挑戦・どんどん響き合う 傍陽の子

児童の実態

- ・全体的に健康的な生活をしているが、体を動かして活動したり、遊んだりする体験が不十分な面が見られる。
- ・全体的に誠実に学習活動に取り組み、着実に学力を身につけているが、学習意欲が浅く、思考力が不十分な姿もある。
- ・全体的に「挨拶」が進んでできるようになってきているが、表現力やコミュニケーション能力が弱い姿も見られる。

保護者・地域の願い

- ・健やかな心身の成長と基礎体力の向上
- ・基礎学力および学習意欲の向上
- ・自他に優しい心を持ち、誰にでも挨拶ができる

**学校の願い**

基礎学力の定着および学習意欲の向上  
人への思いやり（温かい挨拶や声かけ）  
ふるさと「傍陽」への誇り  
心身のバランス良い成長と基礎体力の向上

にこにこ笑顔 【健やかな心と体】	どきどき挑戦 【確かな学力】	どんどん響き合う 【豊かな心】
① 自信と願いを持ち、自他の命を大切に、よりよく伸びようとする子ども ② 友達と共に、体を動かしたり遊んだりする子ども	① 課題を持ち、意欲的に追究することを通して、学力が定着し、学力が向上する子ども ② 自分の考えを持ち、友達と話し合いながら考えを深めていく子ども	① 友達と共に活動し、自他の成長を意識して、共に伸びる喜びを実感する子ども ② 互いの思いや考えを聞き合ったり、話し合ったりして、自分や友達を大切にする子ども ③ 「挨拶・返事・感謝の言葉」や自分の思いを表すことができる子ども

《具現に向けて》

「生活科・総合的な学習の時間・キャリア教育・命と心の教育」の充実を図り、学力・体力への意欲と自尊感情を醸成し、よりよく伸びようとする気持ちを育む。体験活動・交流活動の充実と共に、遊び・運動・勤労活動などを通して、豊かな体験や交流を重ね、学力・体力・人権感覚を高めながら、心身共に健やかな成長を促す。

① 体を動かして友達と共に遊ぶ、活動する機会の設定と充実 ② 体験活動・交流活動の設定と充実 ③ 縦割り活動・学年交流・ひまわり学級・他校や幼保小中との交流、施設交流や外部講師・ボランティア活用など様々な方と関わる機会の設定 ④ 児童会活動・集会活動の充実 ⑤ 学校行事（運動会・音楽会等）の充実 ⑥ 食事・睡眠・運動のバランスのとれた生活習慣と体力向上	① 学習活動における「ねらい・めりはり・見とどけ」の場の工夫と充実 ② 生活科・総合的な学習の時間の充実 ③ 授業改善に向けた授業力の向上 ④ 適切な家庭学習の習慣づくりと習熟の見とどけ、意欲を高める評価 ⑤ 行事・会合内容回数等の精選と学習活動および教材研究・準備の時間の確保 ⑥ 児童の実態・状況把握資料の活用、調査や資料の活用	① 課題を設定し、追究したり解決したりしながら、達成感や満足感を味わい、成長を意識する学習活動や特別活動 ② 子どもも職員も共に進んで挨拶し合う、コミュニケーションの充実 ③ 子どもも職員も共に相手の話をよく聞き、「返事」や「感謝の言葉」を伝え合いながら認め合う日々の学校生活 ④ 子どもの思いや友達関係の把握と、どの子どもも安心して楽しく学校生活が過ごせる支援
--	---	--

【本年度の重点】

友達とともに体を動かしたり、遊んだりする子ども ・体を動かして友達と共に遊ぶ、活動する、運動する機会の設定と充実	互いの思いや考えを聞き合う子ども ・見合う、聞き合う、話し合う、思考を深めるなど子どもが主体的に活動する場面の設定。 (ペア・グループ学習と座席の工夫、聞く意識づくり)	「挨拶」・「返事」・「感謝の言葉」を言える子ども ・子どもも職員も共に進んで挨拶し合う、コミュニケーションの充実 ・子どもも職員も共に相手の話をよく聞き、「返事」や「感謝の言葉」を伝えながら認め合う学校生活
---	--	---

保護者・地域との連携

信州型コミュニティスクール「傍陽の子どもを育む会」

諸行事等における積極的な学校開放と参加協力の依頼  
地域の人材（外部講師・ボランティア）を活用し、連携と信頼関係を深め合う。  
学校だより・ホームページ等の充実＜情報発信＞

施設設備等の活用

「コンピュータ室」「心耕田」「学級園」「岩石園」「さくら窯」「中庭」を活用し、体験活動・交流活動の充実を図る。

1 授業改善を進めるための重点的な取り組み

- ・授業でのねらいを明確にし、学習課題を提示し学習活動を展開する。
- ・自分の考えや思いを言語化し、友の発言を受けて更に考え、他者と関わりながら自分の考えを深めていける追究場面を位置づける。
- ・個に応じた指導を充実し、基礎的な学力の定着を目指す。そのため「見とどけ」において、練習問題、発展問題など、個に応じた学習内容を設定する。（学びの振り返りによる自己評価）
- ・「家庭学習の手引き」を活用すると共に、課題の出し方、内容、時間、見とどけについて検討し、子どもの学習意欲を高め、家庭と連携を図る。
- ・家庭学習の提出状況、課題の達成状況を把握し、個々の子どもにもへ支援をしていく。（記録カードなどを作成し、子どもが自主的に取り組めるようにする）

2 子どもにつける力がついたかどうかを確かめるための検証方法

- ・全国学力学習状況調査とNRT学力検査の結果分析を行い、個々の児童の課題を把握する。
- ・P調査C調査を実施して、個々の課題について具体的な指導内容と方法を検討し指導にあたる。
- ・クリア問題、チャレンジ問題等繰り返し取り組み、定着を図る。

3 教職員の指導力向上に向けた校内研修

- ・テーマを設定して一人一公開を行い、授業研究会をもつ。
- ・授業改善や個別指導の内容と方法について校内研修を行う。
- ・研究主任を中心に、授業改善に向けた研修資料の内容を伝達研修を行う。
- ・校内研修アシストブックの活用。